

令和3年度 大阪府障がい者施策推進協議会

意思疎通支援部会 要約筆記・新たな意思疎通支援ワーキンググループ 議事概要

日 時：令和4年3月24日（木）10:00～11:00

場 所：オンライン開催

出席委員（五十音順・敬称略）：

- ・上野 哲人 特定非営利活動法人大阪府中途失聴・難聴者協会 副理事長
- ・小尾 隆一 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 常務理事
- ・藤井 達也 一般社団法人大阪府言語聴覚士会 会長

■大阪府障害者施策推進協議会意思疎通支援部会要約筆記・新たな意思疎通支援ワーキンググループ運営要綱の改正について

○事務局

- ・資料1、2により説明。

※委員からの意見なし

議題1 要約筆記者確保・派遣事業について

○事務局

- ・資料4により説明。

○委員

- ・要綱上、派遣対象については「要約筆記の支援を受けようとするものが特に高い専門性があると認められること」等が要件となっており、ここでいう「もの」は後援会や催し等、支援を行う「場」を指しているが、「もの」というのは通常「人」を指すため、なかには、「支援を受けようとする『者（人）』が特に専門性が高い」ことが要件であると誤解してしまう人がいるのではないか。

○事務局

- ・行政的な言葉の使い方として、「人」を指す場合は漢字の「者」という字を用いるため、要綱上の「もの」は「人」を指しているというわけではない。
- ・今回、誤解を与えかねないという指摘を承ったので、今後の要綱改正の際にはその点についても検討の上、改正案の提示等させていただく。

議題2 失語症者向け意思疎通支援について

○事務局

- ・資料3、5、6、7、参考資料1により説明。

○委員

- ・当事者には自ら表現をすることが難しい方が多いので、府民に対し、失語症の方がいらっしゃるということをしっかり伝えていてもらいたい。
- ・失語症の場合、聞き手側が障がいについて認識していればコミュニケーションが成立する場合が多いので、公的な窓口等で困っている方がいれば助けてあげてほしい。

○委員

- ・研修を受講された方の感想等はあるか。

○事務局

- ・現在、今年度の受講者アンケートの回答待ちだが、事務局が研修を視察した際には、どの受講者もとても熱心に参加されている印象を受けた。

○委員

- ・認知症者へのバリアフリーに関する資料等を見ていると、当事者が困っている場面は銀行やコンビニ等、ある程度限定されている。
- ・今回、失語症に関する啓発を警察からアプローチしたのには何か意図があるのか。

○事務局

- ・大阪府言語聴覚士会の失語症者支援を担当する委員会と、どこにアプローチをすべきか検討するなかで、警察の方と接する際、失語症者が誤解を受けて不快な思いをするケースがあると伺った。
- ・現在は警察と公共交通機関へのアプローチのみだが、これら以外の団体に対しても、順次、失語症者の存在や困り事について知ってもらえるよう働きかけていきたいと考えている。

○委員

- ・リーダー養成研修の受講者が今年度6名、来年度以降の定員も1クールあたり10名というのは、今後派遣を開始するにあたりあまりにも少ないのではないかと。まずは底上げで年間20名～30名ほどの支援者を養成しないと派遣に対応できないのではないかと。
- ・家族等支援者が受講対象であるパートナー養成研修についても、今年度5名というのは少ないと感じる。
- ・養成研修の講師については、失語症について十分に理解している方が担当しているのか。

○事務局

- ・リーダー養成研修については、養成研修の実習のなかで、失語症者へのデイサービス等を行う施設の活動に受講者が参加するというカリキュラムがあるが、コロナの影響で、施設が一度に受け入れられる受講者の数が1、2名に制限されており、定員を急増させるのは難しい。
- ・また、講師についても、現在は大阪府言語聴覚士会の5名の方を中心にご担当いただいております、一度に指導できる人数は10名が限界と伺っている。
- ・一方で、派遣の必要性については府としても認識しており、少ない支援者でも対応できる支援の形として、サロン向け派遣を提示させていただいたところ。
- ・今後は、サロン向け派遣と並行して、コロナの状況等も勘案しつつ、供給体制の整備を図っていきたい。
- ・パートナー養成研修について、これまでは座学だけでなく実習も実施していたが、今後はオンラインで座学だけの研修に変更する予定であるため、定員について増員可能と考えている。
- ・養成講座の講師については、大阪府言語聴覚士会の会員のうち、国の実施する指導者養成研修の修了者にご担当いただいております、失語症者に対する理解は十分であると考えている。

○委員

- ・事務局から説明があったとおり、講師は国の指導者養成研修の修了者が担当しており、修了者の数は年々増えているものの、まだ十分ではなく、施設の受け入れの問題等も考えると、すぐに養成者を増やすことは難しいというのが現実かと思う。

○委員

- ・「サロン」というのはこういった雰囲気のことを想定しているのか。

○事務局

- ・府内に点在しており、現在はコロナの影響で活動が低迷している、個々の「失語症者友の会」が一堂に会し、当事者同士の交流や情報交換を行う場を想定している。
- ・「サロン」での具体的な活動内容については、今後大阪府言語聴覚士会と調整していく予定。

以上